

国記録選択無形民俗文化財調査報告書

# 鳥海山北麓の獅子舞番楽

秋田県由利本荘市教育委員会  
秋田県にかほ市教育委員会





1. 由利本荘市の景観（本荘平野と鳥海山）



2. にかほ市の景観（仁賀保地域と鳥海山）



1. 由利本荘市矢島町からみた鳥海山



2. にかほ市象潟海岸からみた鳥海山



2. 三人太刀



1. 獅子舞



5. お盆の厄祓い



3. 伊賀



6. 熊野神社例大祭



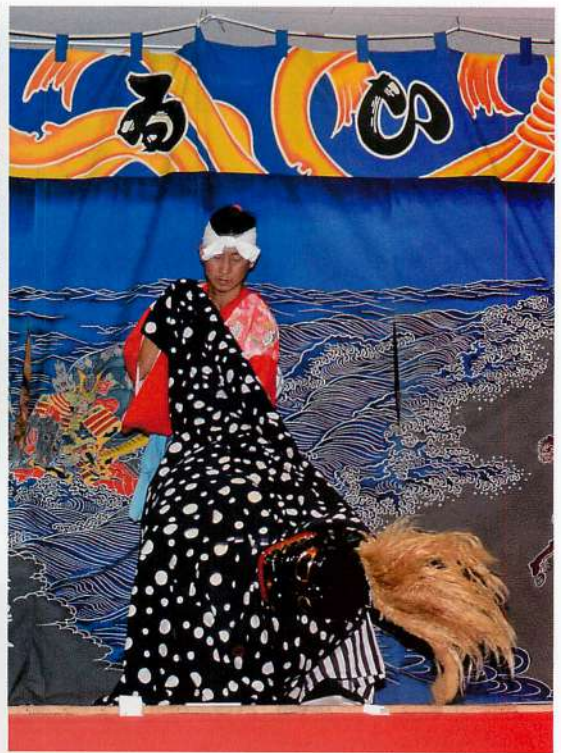
7. 獅子頭 左【隠居獅子】 右【現役獅子】



4. 木曾舞



2. 鳥舞



1. 獅子舞



3. 志賀団七



4. 矢島小弓



5. 門獅子



7. 獅子頭【隠居獅子】



6. 獅子頭【現役獅子】

口絵5 濁川獅子舞



2. 初棚への拝礼



1. お盆の厄祓い



4. 木境大物忌神社虫除け祭りでの奉納



3. 木境大物忌神社の虫除け祭り



7. 獅子頭【隠居獅子】



6. 獅子頭【現役獅子】



5. 矢島の八朔祭での奉納



8. 錫杖



2. 鳥舞



1. 神舞



5. 初午祭



6. 獅子頭



7. 番楽面



3. 番楽



4. 空白舞



口絵7 釜ヶ台番楽



2. 二人舞 (撮影：2007年8月20日)



1. 番楽 (撮影：2007年8月20日)



4. やっちやぎ獅子



3. 鳥舞



6. 柱がらみでの拝舞



5. 初棚の家での拝舞



8. 獅子頭



7. 御獅子神社祭礼のお下がりでの獅子頭巡幸



2. やさぎ獅子 (撮影：2012年9月1日)



4. 翁 (撮影：2003年8月19日)



6. 盆の獅子廻し



7. 獅子頭



1. 番楽太郎



3. 鳥舞 (撮影：2003年8月19日)



5. 三番叟 (撮影：2003年8月19日)

口絵9 鳥海山小滝番楽



2. 番楽



1. 番楽を楽しむ集落の人々



4. 熊谷・敦盛



3. 大江山



6. 四人餅搗き



5. 松迎え



7. 田村



3. 吉田



1. 翁



4. 屋島路



2. こどもたちの三人立



5. 団七



7. 初午祭



6. さつま

口絵11 記録選択以外の獅子舞番楽(活動、休止・消滅)



3.【本荘】赤田獅子舞



4.【本荘】土谷白山神社獅子頭



6.【矢島】沢内獅子舞



8.【岩城】滝俣獅子舞・御獅子廻し



10.【由利】新屋敷獅子舞



1.【本荘】二十六獅子舞



2.【本荘】雪車町番楽・延宝4年(1676)



5.【矢島】荒沢番楽



7.【岩城】富田月山神社獅子頭



9.【由利】蟹沢子舞



2.【大内】新沢八幡神社新沢番楽・門廻し「神舞」



1.【大内】岩谷麗獅子舞・門廻し



4.【大内】高尾山金峰神社御獅子・門廻し「柱噛み」



3.【大内】高尾山金峰神社御獅子・門廻し



6.【東由利】舟打場獅子舞



5.【東由利】地下ノ沢獅子舞・文久元年(1861)番楽幕



7.【西目】中沢番楽



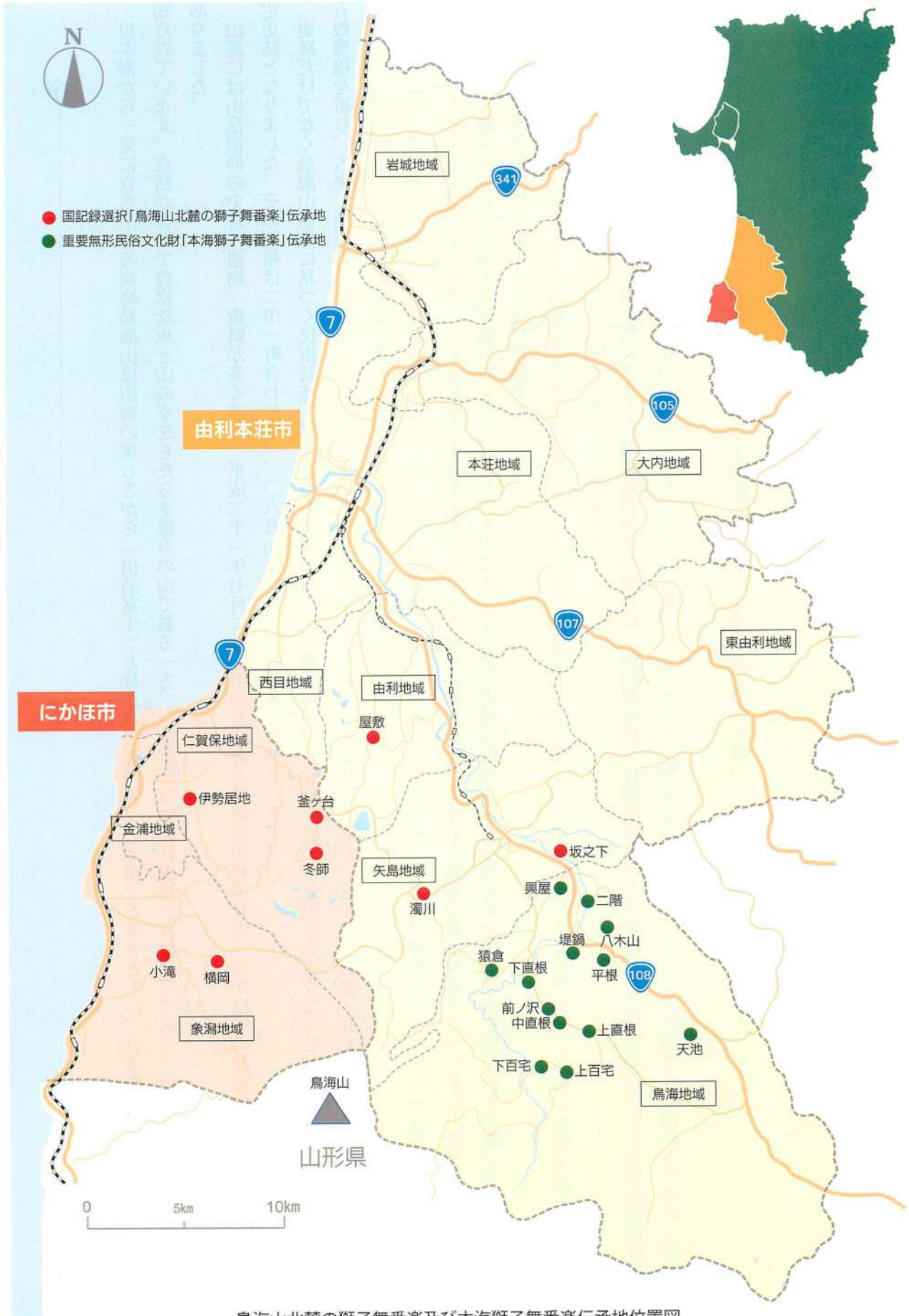
8.【鳥海】皿川番楽



10.【仁賀保】水岡野獅子舞  
(撮影：1993年)



9.【鳥海】貝沢からうすからみ



鳥海山北麓の獅子舞番楽及び本海獅子舞番楽伝承地位置図

## 序

日本海から一気に立ち上がる高峰鳥海山は山容の美しさから「出羽富士」と称され山麓の人々の象徴であるとともに、日本を代表する名山の一つとして広く知られています。自然が豊かで豊富な水と山の幸をもたらす恵みの山である一方、たび重なる噴火は畏怖と畏敬的であり、神の鎮まる山として信仰の対象でありました。

山麓には山岳信仰の史跡や遺物、資料が多く遺り、平成二十一年七月には山形県遊佐町と秋田県由利本荘市、にかほ市の関連史跡が「鳥海山」の名称で国指定史跡となりました。その面積は二市一町合わせて一、〇六五haに及び、国内最大となっています。

史跡だけでなく鳥海山信仰に基づく民俗芸能・年中行事も豊富であり、山麓の各地域で独自の風土と文化を築き今なお受け継がれています。中でも、番楽は五穀豊穡を祈り、古来、地域の人々を結びつけてきた民俗芸能であります。しかし、ご承知のとおり、近年の人口減、高齢化、少子化などの社会構造の変化に伴い、その継承がたいへん難しい状況になっております。

このような状況に対応するため、由利本荘市とにかほ市は共同で平成二十七年度から三十年度まで国と県の補助を受けながら「鳥海山北麓の獅子舞番楽」記録作成事業に取り組みました。平成二十四年に国記録選択となった二市八団体の獅子舞番楽を中心に周辺の獅子舞番楽についても由緒と現状を詳細に調べて記録し、今後も継承していくための基礎資料づくりを目指したものです。この報告書は高山茂委員長をはじめとする諸先生方が四年の歳月をかけ、あらゆる角度から詳細に番楽を調査し、まとめあげた記録です。

先人たちが努力し、継承してきた番楽を未来に受け継ぐことは私たちの責務であります。この報告書を大いに活用しながら、市や地域を越え、環鳥海山の人々が協力し合い、その任に当たっていくことを心から願っております。

最後になりましたが、調査、執筆いただきました調査委員および調査員、特別調査員、特別協力者の方々をはじめご指導いただいた文化庁文化財第一課文化財調査官の吉田純子氏、秋田県教育庁文化財保護室の皆様、調査にご協力いただきました各保存会等の皆様、そしてその他多くの関係者に改めて感謝申し上げます。

本報告書が鳥海山北麓の獅子舞番楽の継承および学術研究の一助となることを心から願い、挨拶とさせていただきます。

平成三十一年三月

由利本荘市教育委員会 教育長 佐々田 亨 三  
にかほ市教育委員会 教育長 齋 藤 光 正



## 例言

一、本書は、平成二十四年三月八日に文化財保護法第八十七条の規定により文化庁長官から「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択された「鳥海山北麓の獅子舞番楽」八団体、「坂之下番楽」「屋敷番楽」「濁川獅子舞」「伊勢居地番楽」「釜ヶ台番楽」「冬師番楽」「鳥海山小滝番楽」「鳥海山日立舞（横岡番楽）」を中心に、鳥海山北麓（秋田県由利本荘市及びにかほ市）に伝承されている活動中及び休止・消滅したその他の獅子舞番楽について調査し、比較検討を加えながら記録作成するため、平成二十七～三十年度の四ヶ年にわたり国庫及び県費補助を受け、由利本荘市教育委員会及びにかほ市教育委員会が共同で実施した「鳥海山北麓の獅子舞番楽記録作成事業」の報告書として刊行するものである。

二、本調査事業は、次の内容に従って実施した。

### ① 芸能調査

「鳥海山北麓の獅子舞番楽」八団体及びその他の獅子舞番楽が、各地域の祭典で奉納及び行事等で公演する芸能の記録及び調査を行う。

### ② 文書・記録調査

各保存団体他、伝承地に伝わる史・資料の中から、「鳥海山北麓の獅子舞番楽」に関する資料を抽出し、歴史的変遷を記録する。

### ③ 民俗調査

「鳥海山北麓の獅子舞番楽」八団体及びその他の獅子舞番楽に関する伝承等の聞き取り調査を行う。

### ④ 獅子頭、面及び諸道具、衣装、楽器等の計測

現行の祭典や行事で使用される獅子頭及び諸道具、衣装、楽器等の計測を行い、それらを記録する。また、各団体及び関係者に継承され、過去の祭典や行事で使用されたと推測される獅子頭及び諸道具、衣装、楽器等の計測も併せて行い記録する。

### ⑤ その他

本報告書作成に関する調査を行う。

三、調査は、調査委員六名、調査員三名、特別調査員三名、助言者三名、特別協力者一名、調査補助員二二名を委嘱して「鳥海山北麓の獅子舞番楽」調査委員会を組織し、調査事務については由利本荘市教育委員会文化課及びにかほ市教育委員会文化財保護課が行った。

調査組織は次の通りである。なお、本年度組織に係る委員等については現在の所属とし、過年度組織に係る委員等については当時の所属を記した。

#### 調査委員長

高山 茂 早稲田大学演劇博物館招聘研究員

#### 調査委員

丸山 妙子 民俗音楽研究家

菊地 和博 東北文科大学短期大学部特任教授

齊藤 壽胤 秋田県民俗学会副会長

高橋 正 秋田県立博物館副館長（平成二十九～三十年度）

丸谷 仁美 秋田県立博物館主査兼学芸主事

#### 調査員

神田 竜浩 独立行政法人日本芸術文化振興会 国立文楽劇場企画制作課専門員

福田 裕美 東京音楽大学准教授

須田 高 秋田県民俗学会会員

#### 特別調査員

高橋 建 本海獅子舞番楽伝承者協議会事務局局長

小野寺 康 秋田県立博物館学芸主事（平成二十八年度）

佐藤はづき 秋田県立博物館解説員（平成二十八年度）

由利本荘市民俗芸能伝承館員（平成二十九～三十年度）

助言者

吉田 純子 文化庁文化財部文化財第一課文化財調査官

高橋 正 秋田県教育庁文化財保護室副主幹(平成二十七、二十八年)

伊藤 隆一 秋田県教育庁文化財保護室学芸主事(平成二十九、三十年)

特別協力者

松田 訓 由利本荘市民俗芸能団体連絡協議会会長

本海獅子舞番楽伝承者協議会会長

調査補助員

坂之下番楽保存会(由利本荘市) 会長 茂木 勇一

屋敷番楽保存会(由利本荘市) 会長 巴 太吉 藤谷 弘一

濁川獅子舞保存会(由利本荘市) 会長 高橋 安男

伊勢居地番楽保存会(にかほ市) 会長 大場 聡 齋藤 真人

釜ヶ台番楽保存会(にかほ市) 会長 佐藤 留吉 阿部 久

冬師番楽保存会(にかほ市) 会長 佐藤 三造

鳥海山小滝舞楽保存会(にかほ市) 会長 吉川 栄一

横岡番楽保存会(にかほ市) 会長 齋藤 昭市 齋藤朝次郎

事務執行機関

由利本荘市教育委員会

平成二十七年 教育長 佐々田亨三

文化課課長 三浦 良隆

文化課文化財班長 佐藤 錠司

文化課文化財班主査 三原裕姫子

平成二十八年度 教育長 佐々田亨三

文化課課長 三浦 良隆

文化課文化財班長 佐藤 錠司

文化課文化財班主査 三原裕姫子

平成二十九年度 教育長 佐々田亨三

文化課課長

文化課課長補佐兼文化財班長

文化課芸術文化班長 山本 英一

文化課文化財班主査 佐藤 錠司

教育総務課課長 三原裕姫子

教育長 三浦 良隆

文化課課長 佐々田亨三

文化課文化財班長 小野 利彦

文化課文化財班主査 三原裕姫子

文化課芸術文化班主査 板垣 俊一

教育総務課課長 佐々木健二

鳥海総合支所市民サービズ課課長補佐 三浦 良隆

佐藤 錠司

にかほ市教育委員会 教育長 齋藤 光正

文化財保護課課長 齋藤 一樹

文化財保護課副主幹 金 民子

文化財保護課主査 石船 清隆

教育長 齋藤 光正

文化財保護課課長 齋藤 一樹

文化財保護課副主幹兼文化財保護班長 鎌田 昭義

文化財保護課副主幹 石船 清隆

文化財保護課副主幹 齋藤 光正

平成二十九年度 教育長 齋藤 一樹

文化財保護課課長 齋藤 一樹

文化財保護課副主幹兼文化財保護班長 鎌田 昭義

文化財保護課主査 須藤 恵

平成三十年度 教育長 齋藤 光正

文化財保護課課長 齋藤 一樹

文化財保護課副主幹兼文化財保護班長 伊藤 学  
 文化財保護課主査 永田みゆき  
 白瀬南極探検隊記念館班長 石船 清隆

四、本書の執筆分担は次のとおりである。

- 高山 茂 第三章第一節、第四節、第七章第二節（月山神社獅子舞・新沢八幡神社獅子舞・岩谷麓獅子舞・高尾山金峰神社御獅子）、第五節、資料編一（一）（二）、資料編二 言立本解題及び（一）（九）
- 丸山 妙子 第六章第一節、第二節、第五節、第六節（一）（四）、楽譜1～16
- 菊地 和博 第五章第四節、第五節、第七章第四節
- 齊藤 壽胤 第二章第二節、第五章第二節、第三節、第七章第二節（舟打場獅子舞・地下ノ沢番楽）
- 高橋 正 第二章第一節
- 丸谷 仁美 第二章第三節、第四章第二節、第七章第二節（砂子沢獅子舞・新上条獅子舞・大倉沢獅子舞）、第三節（北ノ股獅子舞・鮎瀬獅子舞）、資料編一（三）（四）
- 神田 竜浩 第四章第一節、第五章第一節、第七章第二節（福田獅子舞・土谷獅子舞）、第三節（中沢番楽）
- 福田 裕美 第六章第三節、第四節、第六節（五）、楽譜17～38
- 須田 高 第四章第三節、第七章第二節（柴野獅子舞・赤田獅子舞）
- 松田 訓 コラム
- 三浦 良隆 第一章第二節（一）
- 齊藤 一樹 第一章第二節（二）
- 佐藤 錠司 第一章第一節（一）
- 石船 清隆 第一章第一節（二）

五、第七章第一節の調査担当は次の通りである。

（一）表1 活動中の獅子舞番楽

1～4、21、30（須田 高）、5～7（神田竜浩）、8～12、16、37～40（齊藤壽胤）、13、14、25～28、42・43（丸谷仁美・小野寺 康）、15、18～20、29、32（丸谷仁美・佐藤はづき）、36（丸谷仁美・小野寺 康・佐藤はづき）、41（丸谷仁美）、17、22～24、31、33～35、44（高山 茂）、45（高橋 建）

（二）表2 休止・消滅の獅子舞番楽

1～3、17、25（齊藤壽胤）、4、18、21（丸谷仁美・小野寺 康）、5、6、14、22（丸谷仁美・佐藤はづき）、7、33（高山 茂）、8、9、16、27、28（神田竜浩）10～13、20（須田 高）、23、24（丸谷仁美）、26、29～32、34～38（高橋 建）、39～43（菊地和博）、15、19（事務局）

六、口絵写真撮影者は次の通りである。

（一）記録選択八カ所

口絵3 坂之下番楽…1～7（神田竜浩）、口絵4 屋敷番楽…1～4（高山 茂）、5（事務局）、6・7（丸谷仁美）、口絵5 濁川獅子舞…1・2・5・6・8（須田 高）、3・4・7（高山 茂）、口絵6 伊勢居地番楽…1～7（神田竜浩）口絵7 釜ヶ台番楽…1～8（事務局）、口絵8 冬師番楽…1～7（事務局）、口絵9 鳥海山小滝番楽…1～7（菊地和博）、口絵10 鳥海山日立舞（横岡番楽）…1（高山 茂）、2～6（菊地和博）、7（神田 竜浩）

（二）記録選択以外の獅子舞番楽

口絵11…1・2・4・5～7（高山 茂）、3（須田 高）、8（滝俣獅子舞）9・10（丸谷仁美）、口絵12…1～5・8・10（高山 茂）、9（高橋 進一）、6・7（事務局）

七、本書の編集は、高山茂、由利本荘市教育委員会文化課、にかほ市教育委員会文化財保護課が担当した。

八、本調査事業及び報告書作成にあたってご協力いただいた方々及び関係機関については巻末に記した。

## 凡例

一、文体は常体とする。

二、漢字は常用漢字を用いたが、固有名詞等については常用漢字でない漢字も用いた。

三、引用資料については助詞または送り仮名の片仮名文字は、写本の表記を尊重しつつ大小の別をつけ、読みに応じて適宜句読点をつけた。

四、数字の表記は漢数字を用いた。ただし、年月日、時間及び固有名詞、引用文は「十」「百」「千」を用い、それ以外は「一〇」「一〇〇」「一〇〇〇」と表記した。なお、獅子頭や諸道具等、獅子舞番楽に関わる計測値は原則としてアラビア数字を用いた。

五、獅子頭、面及び諸道具、衣装、楽器等の計測値の単位の表記については、mm、cm、m、kmに統一した。

六、年号は和暦を用い、( ) 書きで西暦を漢数字で示した。

例 宝永元年(一七〇四)

七、地名等について

①住所表示で旧市町名のない伝承地(本荘市、由利町、大内町、仁賀保町、金浦町)の表記については、伝承地名などの後に( ) 書きで旧町名を記した。

例 由利本荘市蟹沢(旧由利町)、にかほ市冬師(旧仁賀保町)

②住所表示のない伝承地の表記については、節の最初の表記のみ住所表示し、以降は省略した。

例 「由利本荘市の屋敷番楽(旧由利町)」 ↓ 以降「屋敷」

③古文書等に出てくる地名は原則そのまま用いた。必要に応じて( ) 書きで現地名を入れた。

八、註・参考文献については、各節の最後にまとめ、註は文中に( ) で註記した。また、文章中で用いた参考文献は、各節の最後に、註(一)、(二)などとして、著者名、書誌名、出版社、刊行年、引用頁を記載した。

なお、巻末に本報告書に関わる獅子舞番楽関連の文献を「主要参考文献」として掲載した。

九、各節の掲載写真は、撮影年を記さない限り、平成二十七〜三十年度にその節の執筆担当者が撮影したものである。

十、現代の社会通念においては不適切と思われる言葉を含む資料も使用しているが、学術報告書の性格上、資料として原文どおり引用・掲載した。

# 目次

口絵  
序  
例言  
凡例

## 第一章 鳥海山北麓の自然と暮らし

第一節 鳥海山北麓の地勢

(一) 由利本荘市

(二) にかほ市

第二節 鳥海山北麓の自然環境と暮らし

(一) 由利本荘市

(二) にかほ市

## 第二章 鳥海山北麓の歴史と文化

第一節 鳥海山北麓の歴史と文化

(一) はじめに

(二) 原始・古代

(三) 中世

(四) 近世

(五) 近現代

第二節 鳥海山北麓の修験道信仰

(一) 鳥海山の修験信仰

(一) 修験信仰と関わる祭礼  
(二) 修験信仰と芸能  
第三節 鳥海山北麓の民俗と行事  
(一) 鳥海山北麓の年中行事〔正月行事と盆行事〕  
(二) その他の行事  
(三) 庄内地方との関わり  
(四) 鳥海山信仰と人々の暮らし  
(五) 暮らしに息づく番楽

## 第三章 番楽の伝承と鳥海山北麓の獅子舞番楽

第一節 秋田市の獅子舞と番楽

(一) 番楽と獅子舞

(二) 山谷番楽と面

第二節 古面と修験の獅子頭

(一) 菅江真澄の記録した番楽面

(二) 修験持ちの獅子頭

第三節 本海行人の獅子舞番楽伝承

第四節 鳥海山北麓の獅子舞番楽

(一) 獅子舞番数のこと

(二) 番楽の演目

(三) 番楽の獅子舞

(四) 露払いの舞

(五) 「翁」

(六) 「いか」

(七) 「若子」舞の重要性

47

42

42

29

25

25

63

69

69

72

77

79

第四章 由利本荘市域の獅子舞番楽

第一節 坂之下番楽 ..... 91

(一) 所在地

(二) 上演時期・場所

(三) 当該地域の概要(地勢・人口・戸数・生業・歴史的文化的特性など)

(四) 歴史・由来

(五) 現状と過去の状況

第二節 屋敷番楽 ..... 101

(一) 地域の概要

(二) 番楽の由来

(三) 保存団体と番楽の伝承

(四) 演目とその変化

(五) 番楽の一年

(六) 舞台・道具類など

(七) 屋敷番楽の広がり

第三節 濁川獅子舞 ..... 118

(一) 濁川集落の概要

(二) 濁川獅子舞の名称等と上演行事

(三) 濁川獅子舞の由来と歴史

(四) 濁川獅子舞の組織

(五) 濁川獅子舞の現況と過去

(六) 言立と囃子手

(七) 演目

(八) 獅子の信仰と形態(祓い獅子・奉納獅子・柱がらみ・虫追い等)

(九) 獅子頭・番楽面・道具類

(十) 伝承状況と今後の課題

(十一) 濁川獅子舞番楽資料

第五章 にかほ市域の獅子舞番楽 ..... 131

第一節 伊勢居地番楽 ..... 131

(一) 所在地

(二) 上演時期・場所

(三) 当該地域の概要(地勢・人口・戸数・生業・歴史的文化的特性など)

(四) 歴史・由来

(五) 現在と過去の状況

第二節 釜ヶ台番楽 ..... 142

(一) 地域の概要

(二) 名称・所在地・上演期間・場所

(三) 歴史・由来

(四) 現況と過去の状況

(五) 獅子神社と番楽

(六) 獅子の舞態

(七) 楽器と囃子など

(八) 獅子頭・番楽面・道具類

第三節 冬師番楽 ..... 150

(一) 地域の概要

(二) 名称・所在地・上演期間・場所

(三) 歴史・由来

(四) 組織

(五) 現況と過去の状況

(六) 楽器の構成

(七) 番楽の演目

(八) 番楽面

(九) 番楽用具類

(十) 獅子頭

第四節 鳥海山小滝番楽

(一) 小滝集落における鳥海山信仰と金峰神社

(二) 番楽の名称

(三) 鳥海山小滝番楽の歴史・由来

(四) 現在の上演時期と場所

(五) 組織

(六) 現在と過去の状況

(七) 獅子の信仰と形態

(八) 番楽面、道具類等

(九) 鳥海山小滝番楽資料

第五節 鳥海山日立舞(横岡番楽)

(一) 横岡集落の概要

(二) 名称・所在地

(三) 横岡番楽の歴史・由来

(四) 上演時期と場所

(五) 組織

(六) 現在と過去の状況

(七) 獅子の信仰と形態

(八) 番楽面

(九) 番楽幕

(十) 衣裳

(十一) 楽器

(十二) 鳥甲・錫杖等道具類

(十三) 鳥海山日立舞(横岡番楽) 番楽資料

第六章 獅子舞番楽の音楽

第一節 屋敷番楽と冬師番楽

(一) 屋敷番楽の楽器と楽の特徴

(二) 冬師番楽の楽器と楽の特徴

(三) 冬師番楽の現状

(四) 冬師番楽に関する資料

(五) 『日本民謡大観』と現在

第二節 獅子舞の音楽 — 屋敷番楽と下直根番楽 —

(一) 屋敷番楽の獅子舞の楽

(二) 下直根の獅子舞・鳥海町の番楽と屋敷番楽の比較

第三節 鳥海山小滝番楽と鳥海山日立舞(横岡番楽)

(一) 鳥海山小滝番楽の楽器と楽の特徴

(二) 鳥海山日立舞(横岡番楽)の楽器と楽の特徴

(三) 鳥海山小滝番楽の楽と鳥海山日立舞(横岡番楽)の楽の比較

第四節 鳥海山小滝番楽・鳥海山日立舞と杉沢比山

(一) 演目

(二) 楽器と楽の特徴

第五節 屋敷番楽・冬師番楽と鳥海山小滝番楽・鳥海山日立舞

(一) 獅子舞番楽の音楽的特性 — 「翁」を中心に —

(二) 能楽の「翁」と屋敷番楽における「翁」「三番叟」の形態

(三) 屋敷の「翁の言立」における音楽的特徴

(四) 屋敷の「翁の楽」について

(五) 冬師・釜ヶ台・下直根の「翁」

(六) 鳥海山小滝番楽・鳥海山日立舞(横岡番楽)・杉沢比山の「翁」の比較

第七章 記録選択以外の獅子舞番楽の現況 …………… 247

第一節 活動及び休止・消滅の獅子舞番楽一覧表 …………… 247

第二節 由利本荘地域の活動中の獅子舞番楽 …………… 267

柴野獅子舞・赤田獅子舞・福田獅子舞・土谷獅子舞・砂子沢獅子舞・月山神社獅子舞・新上条獅子舞・新沢八幡神社獅子舞・大倉沢獅子舞・岩谷麓獅子舞・高尾山金峰神社御獅子・舟打場獅子舞・地下ノ沢番楽

第三節 由利本荘地域の休止・消滅の獅子舞番楽 …………… 280

北ノ股獅子舞・鮎瀬獅子舞・中沢番楽

第四節 概況・にかほ地域の消滅した番楽 …………… 283

第五節 荒沢獅子舞(荒沢番楽) …………… 286

コラム 本海獅子舞番楽の獅子頭の造形 …………… 289

資料編

一、番楽関連資料 …………… 295

(一) 荒沢番楽「奉祭本海流系譜」

(二) 濁川番楽「本海流獅子舞秘伝大事 乍恐奉申上獅子舞之事」

(三) 土谷獅子舞「本皆流獅子舞秘伝之大事」

(四) 土谷獅子舞「神宮獅子」(柱がらみ)

二、「鳥海山北麓の獅子舞番楽」詞章本(言立本) …………… 299

言立本解題

鳥海山北麓の獅子舞番楽詞章本(言立本) 諸曲一覧  
詞章本(言立本)

- (一) 坂之下番楽『獅子舞言立 全』
- (二) 屋敷番楽・熊谷治郎兵衛家所蔵本

- (三) 濁川番楽『獅子舞根本記』
- (四) 伊勢居地番楽『伊勢居地獅子舞神歌』
- (五) 釜ヶ台番楽『釜ヶ台の獅子舞』
- (六) 冬師番楽『冬師獅子舞謡』
- (七) 鳥海山小滝番楽『鳥海山小滝番楽舞』
- (八) 鳥海山日立舞(横岡番楽)『郷土藝術 日立舞』
- (九) 荒沢番楽『舞子案内』

鳥海山北麓の獅子舞番楽主要参考文献  
調査協力者及び機関  
あとがき